

真心

2023. 11. 15

WBCで侍ジャパンを世界一に導いた栗山英樹さんの話である。「チームづくりにおいて、監督が大切にされていることは何ですか」という質問に対して、栗山さんは、こう答えている。

強い組織というのは、全員が自分の都合よりもチームの都合を優先し、全員がチームの目標を自分の目標だと捉えていることだと思っています。そういうことを伝えるために、今回は長くミーティングをする時間がなかったものですから、30人の選手全員に手紙を書きました。僕はあまり字がうまいんですけど、墨筆で。それを代表合宿がスタートする日に、各人の部屋に置かせてもらったんです。真心ってそういうものでしか伝わらないような気がしたものですから。

手紙に書いたことは、あなたは日本代表チームの一員なのではなく、あなたが日本代表チーム。要するに、自分のチームだと思ってほしいと。会社でもサラリーマン意識で勤めているのか、自分がオーナー経営者だと思って働いているのかでは感覚が全く違いますよね。全員に「このチームは俺のチームだ」と思ってやってほしかったんです。

そのため、普通はキャプテンを一人指名するわけですが、今回は全員がキャプテンだと。正直言って僕が相手できるような選手たちじゃなくて、本当にトップクラスがそろったので、一人にプレッシャーをかけるよりも、そのほうが勝ちやすいと判断したんです。そうしたら、初日の練習が終わった後、ダルビッシュが僕の部屋に来て、「監督、全員キャプテンOKです。あれ、いいですね。しっかりやります」みたいなことを言ってくれました。

野球の試合は9人しか出場できません。例えば、ベンチに座っている選手が、ふんぞり返るようにして傍観しているチームなのか、それとも前のめりになって声を出しながら、いつ出番が来てもいいように準備しているチームなのか。要するに、他人事にするチームは、やっぱり勝ち切らないと思うんですよ。僕はそれをファイターズの監督をしていたときに実感したので、自分のチーム、全員がキャプテンなんだと伝えました。

30人一人一人に直筆の手紙を書く。やろうと思っても、なかなかできるものではない。校長として、教職員一人一人に手紙を書きたくなったことはある。だが、書いてはいない。研究授業を参観して感じたこと、考えてほしいことなどを「職員室だより『切磋琢磨』」に載せているぐらいである。それもパソコンで打ったものである。

これで、真心が伝わるかというと伝わらない。真心とは、偽りや飾りのないありのままの心や気持ちである。誠心誠意他に尽くす心である。真実の心は、そう簡単には伝わらない。だが、もし伝わったとしたら、それはものすごい力となる。侍ジャパンが、それを証明してくれた。